



2024年5月20日

各 位

会 社 名 株式会社極楽湯ホールディングス
代表者名 代表取締役会長兼社長グループCEO 新川 隆丈
(コード番号 2340 東証スタンダード)
問合せ先 取締役執行役員CFO 鈴木 正守
電話番号 03(5275)4126 (代)

特別損失及び法人税等調整額（益）の計上

2024年3月期 連結業績及び個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社グループは、2024年3月期第4四半期連結会計期間（2024年1月1日～2024年3月31日）におきまして、特別損失及び法人税等調整額（益）を計上いたしました。また、当社は2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の連結業績及び個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容

直営店舗の固定資産に対して各店舗単位で見積もりした回収不能見込額に加えて、中国グループが連結範囲から除外されたことにより中国に所在がある当社保有の資産に対して減損損失85百万円を計上いたしました。

2. 法人税等調整額（益）の内容

業績の回復等により繰延税金資産を計上したことで法人税等調整額（益）276百万円を計上いたしました。

3. 業績に与える影響

本件につきましては、本日発表しました「2024年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

4. 2024年3月期通期連結業績

(1) 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株あたり 当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 12,768	百万円 40	百万円 184	百万円 △304	円 銭 △14.20
当期実績値 (B)	14,082	748	720	697	23.86
増減額 (B-A)	1,313	708	536	1,001	38.06
増減率 (%)	10.3%	—	291.1%	—	—

(2) 差異が生じた理由

売上高は、集客が回復してきたことに加えて、日本での様々な人気コンテンツとのコラボが好調に推移したことや直営店舗での入館料や回数券価格の値上げやシーズン料金の適用が大きく貢献し、14,082百万円（前期比10.3%増）となりました。

営業利益は、売上高の増加に加えて、電気代・ガス代の補助が継続されたことや全店で節電などコスト削減に努めたことで、748百万円（前期営業利益40百万円）となりました。

また、店舗の営業制限に伴う雇用調整助成金や時短営業協力金が前期に比べ減少したことや、金融機関からの金融取引に係る支援（返済猶予）から金融取引を正常化する目的で締結したシンジケートローン契約によりシンジケートローン手数料を計上したこと等により経常利益720百万円（前期比291.1%増）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、85百万円の減損損失の計上があったものの前期に比べ計上額が減少したことに加えて、業績の回復等により繰延税金資産を計上したことで法人税等調整額（益）を計上したこと等により697百万円（前期親会社株主に帰属する当期純損失△304百万円）となりました。

5. 2024年3月期通期個別業績

(1) 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 567	百万円 95	百万円 90	百万円 △337	円 銭 △15.76
当期実績値 (B)	865	373	312	1,519	53.77
増減額 (B-A)	298	278	222	1,857	69.53
増減率 (%)	52.6%	293.5%	246.2%	—	—

(2) 差異が生じた理由

連結子会社の業績向上が見られることを踏まえ、経営指導料を増額したこと等により売上高865百万円（前期比52.6%増）、営業利益373百万円（前期比293.5%増）となりました。

また、為替相場の変動により生じる為替差益の増加等により経常利益166百万円（前期比246.2%増）となりました。

当期純利益については、連結子会社の業績悪化により債権の回収が困難となる可能性を考慮し貸倒引当金を計上しておりましたが、連結子会社の業績回復をうけ当該貸倒引当金のうち829百万円を貸倒引当金戻入額(益)に計上したことや、子会社株式売却益350百万円の計上等により1,519百万円の当期純利益となりました。

以 上